

北九州市立児童館（39 館） 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日（水） 9：30～12：10
 - 2 場 所 小倉北区役所 西棟7F 特別会議室
 - 3 出席者 （検討会構成員） 山下智也構成員、山下比呂志構成員、
玉井構成員、田村構成員、小林構成員
（事務局） 子ども家庭局こども若者成育課
居場所づくり担当課長、
居場所づくり担当係長、職員
- 4 会議内容
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
 - 構成員の互選により、座長を選出
 - 応募団体（社会福祉法人 北九州市福祉事業団）から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。
- （構成員） 児童館の中で学童を併用して行っているという認識で良いか。
- （応募団体） 児童館 39 館のうち、29 館（正しくは 28 館）において放課後児童クラブ事業を実施している。
- （構成員） では、児童クラブにおいて早期開所の要望が利用者からあったので、8 時から繰り上げて開所時間を早めているという認識で良いのか。
- （応募団体） その認識でよい。
- （構成員） 有効性に関する取組の中で、NPO と共同して「まなぼうさい」に取り組んでおり、大切な取組であると思うが、子どもを預けている時の停電等災害に備え、児童館に飲食物等の災害用備蓄はあるのか。
- （応募団体） 児童館は宿泊施設ではないので、食べ物等の備蓄はしていない。
- （構成員） では、もし児童館利用中に停電等が発生した場合はどうするのか。
- （応募団体） 何か災害等があった場合は、各館によって避難する場所も決めており、非常電話で家庭との連絡もとれるようにしている。児童館から連絡が難しい場合や地区ごとの停電の場合には、職員が携帯電話から法人本部に連絡を行い、法人本部から保護者に、一斉のメッセージ送信システムを用いて連絡を行う。停電となると、緊急性の高い場合も多いため、そこでメッセージに既読がつかなかった場合は職員が手分けして、保護者の方に連絡して、確実に連絡がつくような体制をとっている。
- （構成員） 職員の労働環境等について聞きたい。この親子ふれあいサロンというのは、北区役所の 8 階の施設のことか。

- (応募団体) それは親子ふれあいルームである。児童館にある親子ふれあいルームは、専用の部屋がある。サロンの場合は、遊戯室の一部を使って、親子で過ごす場所となっている。
- (構成員) 児童館職員は、忙しそうにしている、話しかけにくかったりする親も結構いたりする。職員のモチベーション維持や、働きやすさは、サービス直結するところだと思うが、心がけていることはあるか。
- (応募団体) 児童厚生員で組織する委員会において、適宜業務やICT化についての見直しを検討しており、仕事にゆとりを持ちながら、本質である利用者と向き合うことに注力してやっている。ご指摘どおり、忙しそうにしている、声をかけづらいということがあったということなので、そこは十分気をつけて運営に携わっていきたい。
- (構成員) 39館も児童館を運営いただいている。人材がたくさん必要になってくる中で、人の入れ替わりも出てくる。退職する方々が年間どれくらいいて、どれくらい新たに採用されるのか。そのあたりの実情を教えてください。
- (応募団体) 年間に定年退職者と退職者で8名。その補充を新規採用という形で行っている。全体で94名の児童厚生員がいる。
- (構成員) 児童館あるいは児童クラブの現場の人材が入れ替わる場面は多いかと思うが、その際にどれだけ人材の育成を大事にされているのか。49pを見ると、研修の内容として知識習得・レクチャーが多いようだが、実際に現場で子どもと関わって、どのように感じたとか、実践的な研修等は設けられているのかについて知りたい。
- (応募団体) 「あるあるカフェ」を開催し、児童厚生員が「うちの児童館ではこんなことがあるんだけど」等、自由に話せる研修も行っている。他にも個別に児童館からも様々な連絡があり、悩みなども事務局の方で、個別に対応を行い、苦情等についても児童厚生員の会議にて共有している。
- (構成員) 子どもの放課後の現場は、すごくニーズが高く大事な仕事であり、スタッフの入れ替わりがあるとなかなかそこで大事なことが共有されないまま指導的な管理的な関わりが現場で起こっているという実情が他都市も含めて見受けられる。子ども主体の育ちということも加味しながらやっていければ良いということで質問させていただいた。
- (構成員) 11ページに療育相談員についての記載があり大切な取り組みだと感じる。支援が必要なお母さんが、児童館を頼りにしている一方で現場の先生方が苦勞する現状があり、グレーゾーンの児童も増えている。療育相談員のケース事例が数字として出ているが、私個人としてはもっとニーズがあると感じた。これは相談員が足りなくてこの現状なのかそれともニーズがこれぐらいのものなのか。
- (応募団体) この数字は、保護者や児童と直接療育相談員がサポートを行ったケースである。現場で対応が可能な場合もあり、状況に合わせて適切な対応を行うようにしている。
- (構成員) それで現場で対応できる部分と、療育相談員が関わることで改善が見込まれるケースがあるのであれば、今後もそのような対応が望ましいと思う。

○応募団体のプレゼンテーション・質疑応答終了後、意見交換

- (構成員) 私の住んでいる地域に児童館がなく、関わりを持つ機会が少なかった。何か理由があるのか。
- (事務局) 2中学校区に1館の割合で当時、児童館を整備をしている。小学校区によっては児童

館がないところもある。

- (検討員) 児童館での活動内容によっては、市民センターで実施しているようなこともあるし、児童についても学校の中にあることが多い。
- (事務局) 学童については働く保護者のニーズというのが大前提にあるので、1つの小学校に1つというところで整備を進めている。誰でも利用できる遊びの場であるということも児童館の役割としてあるので、本当はすべての小学校区に1つあれば一番良いのだが。
- (構成員) 校区を超えても児童館の利用をしてよいのか。
- (事務局) 利用可能である。小学校のルールで校区外を子どもたちだけで自由に行き来するのは、基本的に禁止だったはずなので、子どもたちだけでいくのはハードルが高い。特に小学生。
- (構成員) 現実なかなか難しいのかな。
- (構成員) 県内全体を見ると北九州市は児童館が多いほうで、福岡市内は大型児童館が一つあるだけ。
- (構成員) 小学生(一般利用)は学校が終わったら、児童館に行く方が多いのか。
- (構成員) 放課後児童クラブとは違い、一度帰宅してから児童館に行っている。対象の児童が18歳までなので、例えば3歳未満の子どもさんは、親が連れていくとかそういった利用もある。中学生、高校生も来館が可能。
- (構成員) 児童館の案内等は来ているか。存在を知らない人も多いのでは。児童館のある校区外の子どもたちは知らないのではないか。
- (事務局) 市民センターと機能が重複するところはあつる。昭和40年代から50年代、国がそういった場所を作りなさいと言われた時に北九州市は、小規模型児童館に手を挙げて、2中学校区に1つ整備した。福岡市は大規模で整備を検討し、本市児童館のような機能は、公民館、市民センター的なものでやっている。その整理の違いがあるかと思う。
- (構成員) 検討会としての評価レベル審査結果であるが、多少の開きはあるが、これは構成員の基準の相違だと考慮し、基本的には要件を満たしているという状況であるため、特に異議がなければこの形で評価ということによいと思うが修正等はないか。
- (構成員全員) 異議なし。

○各構成員より総評をいただく

- (構成員) 「あるあるカフェ」という取組等を知れた。各職員間で問題等を共有できる良い機会だと思う。北九州市福祉事業団については、療育センターの立ち上げ当初から実績があり、障がい者サービス等に対する知識や強みもある。そこを生かしながら運営していけると良いと思う。
- (構成員) 児童館自体はすごく良い施設だと思う。広報活動に力を入れて、皆さんにより使ってもらえる施設になると良いと思う。
- (構成員) 人材確保の件で高齢者も職員として雇用されていると聞いた。広報活動においては、LINEやInstagram YouTubeなどで発信していきたいとのことであったが、職員に使い方等をきちんとレクチャーした上で、適切なSNSの運用をしていただきたい。
- (構成員) 児童館や放課後児童クラブに助けられている保護者は多いと思う。これまで以上に事業を頑張ってください。

(構成員) 放課後児童クラブ・児童館の必要性が今かなり注目されていると思うので、北九州市の児童館のことが簡単にわかるようなペーパーがあればより理解しやすかったかと思う。

今回の事業の評価のことにに関して言うと、この39館という大きな規模の中でも、しっかりと運営されているのかなという印象がある。

あまり議論にはあがらなかったが、子どもの主体性の重視とか、居場所についての考え方も重視されている。ただ一方でスタッフの入れ替わりによって混乱している実情も私も耳にする部分があるので、そういったときにあしろ、こうしろという管理型の場になってしまうとせっかくの子ども主体の場が形成できないので、管理側の人たちが上手く考えていく必要がある。

要はスタッフの入れ替わりがあるからこそ情報共有をしっかりとって運営をしていただきたい。また、療育の専門家がいるということがこの組織の強みだと思う。発達支援の部分も含めて、強みを生かして子どもたちの育成に寄与していただきたい。

○ 意見交換・総評発表を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。